

仙台市産科セミオープンシステム診療マニュアル

仙台市産科セミオープンシステム運用に当たっての取り決め

妊婦の紹介について

1 紹介状

原則的に紹介状は不要です。

共通診療ノートに必要事項を記載し、これを紹介状の代わりとします。

妊娠8～10週の胎児のエコー（CRLが計測されている写真）を共通診療ノートに必ず貼付して下さい。

また検査結果のコピーも共通診療ノートに貼付して下さい。

共通診療ノートはあんしんアシスト仙台より各施設で購入の上、（1冊100円）、患者さんに渡して下さい。

2 紹介の時期

妊娠初期

健診施設から分娩施設への紹介

妊娠10～12週頃に分娩施設を受診するように紹介して下さい。

患者様には夜間救急に分娩施設で対応するためには初期に受診して

カルテを作成する必要があると説明してください。また初診料が

かかることの説明もお願いします。

分娩施設から健診施設への紹介

母子手帳を取得し妊娠12週頃に健診施設を受診するように

紹介して下さい。

受診時に初診料および妊娠初期検査で1.5～2万円ほどの私費負担が

あることをあらかじめ説明しておいて下さい。

妊娠20週

分娩施設で胎児スクリーニングや頸管長の測定を行います。

助産師の指導もこの時に行います。

初期の分娩施設受診時に、できればこの時の健診予約を取って

おいて下さい。

妊娠34週以降

分娩まで分娩施設で健診を行います。

夜間・休日の救急対応について

妊婦さんが分娩を予約した施設（病院）で必ず初期対応をしてください。その上で必要があれば高次医療機関への紹介・搬送をお願いします。

仙台市以外へ戻り分娩する妊婦の夜間救急対応について

セミオープンシステム利用の妊婦と同様、妊娠初期にいずれかの分娩施設を紹介していただきカルテを作成することで夜間救急に対応します。

紹介の際は紹介状もしくは共通診療ノートが必要になります。

妊娠中の検査について

1 風疹抗体価（HI）・血糖（1回目）：健診施設もしくは分娩施設で

先天風疹症候群発生の予防や糖尿病合併妊婦の早期発見のために、妊娠の初診時もしくは2回目の受診時に行う。

風疹抗体価256倍以上の場合は1～2週後のペア血清を用いて抗体価とIgMを再検する。16倍以下の場合は感染予防の指導を行う。

随時血糖100mg/dl以上の場合は75g糖負荷試験を行う。

2 原則として妊娠12週頃に健診施設で行う検査（必須）：健診施設で

CBC、HBs抗原、HCV抗体、HIV検査、梅毒検査、血液型

抗体スクリーニング、クラミジア抗原、子宮頸部細胞診

3 妊娠初期に希望者に行う検査：健診施設もしくは分娩施設で

HTLV-1抗体、トキソプラズマ抗体、麻疹抗体、水痘抗体、

HbA1c、心電図など

4 妊娠中期の検査：健診施設で

24～28週頃 血糖検査（2回目）

28～30週頃 CBC

GDMのスクリーニング目的で妊娠中期にも血糖検査を行う。

カットオフ値は妊娠初期と同様。

5 妊娠後期の検査：分娩施設で

34～36週頃 GBSを目的とした膈分泌物培養

37週以降 NST